

秋田県合同輸血療法委員会 活動概要

秋田県では、1998年から医療機関、血液事業者、行政の三者による「秋田県合同輸血療法委員会」を組織し、血液製剤の使用適正化を強力に推進してきた。毎年、輸血療法委員会設置状況、輸血部門一元化状況、輸血管理体制や血液製剤使用状況調査報告に加え、毎年5～6施設より各テーマに沿った事例発表があり、他施設の取り組みを参考としてきている。

尚、日本輸血・細胞治療学会で行った「2012年血液製剤使用実態調査」によると、秋田県の輸血管理体制の都道府県別血液製剤使用実態調査回答率は全国でトップの値を示しており、合同輸血療法委員会の効果と思われる。

当初は、各医療機関における輸血療法委員会設置の推進、輸血部門一元化の推進を合同会議の目的とし、輸血療法委員会は100床以上の施設で89%、200床以上の施設は全施設で設置され、輸血部門一元化施設も増加するという効果があった。また、合同輸血療法委員会の使用状況調査で、県内医療機関における輸血用血液製剤の使用実態及び、自己血採血実施状況の正確な把握が可能となり、これらの使用状況を合同輸血療法委員会で報告することで、同規模施設間での使用量の比較、それによる自施設の現状把握を行い、適正使用を推進してきた。2006年からはアルブミンの使用状況も調査している。尚、使用状況調査は各医療機関の使用及び廃棄単位数に加え、疾患別実輸血患者数、延べ輸血患者数、自己血輸血患者割合など、今後の献血推進や血液事業においても有益な情報が得られている。集計血液数は全県での使用血液数の約98%を占め、県全体の詳細な使用状況調査と言うことができ、まとまりとしては他に類を見ない。

医療事故防止対策、副作用管理、凍結血漿使用適正化、輸血検査の実施体制、輸血療法委員会の使用適正化における活動内容、患者中心の輸血医療などの毎年のテーマに沿った事例発表では、発表施設自体での問題点の把握、改善がなされるのに加え、合同輸血療法委員会参加施設においても適正化への取り組みなどの大きな参考になった。つまり、会議への単なる出席や受動的な情報受信のみでなく、事例発表など積極的、能動的な合同輸血療法委員会への参加が行われてきたのが、秋田県における合同輸血療法委員会の特徴であり、使用適正化への役割は大きいと考える。

I&Aを活用した取り組みも、2002年と2003年にパイロット的に行い、対象医療機関の安全な輸血療法の検証と参加各施設の自己点検、外部評価の重要性の理解に貢献したと思われる。2006年には、地方の中核病院である3施設に対して、本格的に合同輸血療法委員会が主体となってI&A視察を実施し、2007年の合同委員会でそれらの改善状況の報告を行った。これにより、院内輸血管理体制の改善と輸血の安全性に対する意識が向上した施設があり、安全で適正な輸血を実施する上での問題点と改善策を全体で討議したことで、会議の参加施設ではI&Aの役割・効果を理解し共有することができた。

2008年の合同輸血療法委員会では、血液事業の視点からこれまでの適正使用への取り組みを総括した。また、県中央地区のみならず、県北、県南地区での輸血講演会を企画し、自己血輸血の推進、血液製剤の適正使用に関する講演会を実施した。2009年には、各施設のアルブミンを含めた血液製剤使用適正化状況を検討することと、I&Aを活用した輸血療法委員会などの活性化を図ること、大量、危機的出血時の輸血体制について県内の状況を把握することができた。さらに、県北、県南の2回、地域に根ざした輸血講演会を企画することで、秋田県内各施設の適正輸血をさらに推進することができた。

2010年には、輸血療法委員会の相互訪問を実施し、先進的な施設での輸血療法委員会にオブザーバー参加したことで、輸血療法委員会の活性化につなげてきた。また、「輸血療法委員会の活性化」を主題とする総合討論により、輸血療法委員会に求められる内容について確認することができた。2011年には、各医療機関の輸血療法委員会の活性化をさらに進め、また、検査技師及び看護師を対象とした研修会を企画し、コ・メディカルに対する輸血の安全性教育推進を

図ることで、血液製剤の適正使用推進に加え、安全な輸血体制の構築を目指した。輸血に関する認定制度が進展し、輸血認定医、認定輸血検査技師、学会認定・臨床輸血看護師や学会認定・自己血看護師などの輸血関連の認定制度について特別講演をもうけたことで、輸血の安全教育に対する認識が深まったと考える。2012年には、「輸血の安全性確保に対する看護部門でのアプローチ」をテーマに県内外の施設から報告を求めた。輸血副作用や輸血過誤に対する認識が新たとなり、輸血の安全確保につながったばかりでなく、血液製剤の安全な使用や適正使用についての基礎的な受入素地が形成された。さらに、日本輸血・細胞治療学会のI&Aのチェックリストを活用した合同輸血療法委員会構成員による視察も、大学病院と市中病院の2施設で行った。この市中病院はかつて視察を受け入れており、さらなる輸血管理体制の改善を目的とした2度目の受審であった。

2013年には、「患者中心の輸血医療」をテーマとして、医療機関の視点から適正使用について討論を行い、EBMに基づかない慣習的な輸血に対して警鐘を鳴らした。また、輸血の適正使用を進めるには看護師教育も重要と認識し、学会認定の自己血輸血看護師、臨床輸血看護師の育成に合同会議をあげて努めた。また、合同輸血療法委員会の下部組織として、看護師部会、検査技師部会、医師部会を設置し、輸血に関連する職種毎の連携の素地を醸成し、研修会などの母体とした。

本年度は、引き続き輸血療法委員会の活性化を推進し、輸血管理料や適正使用加算、貯血式自己血輸血管理体制加算の取得状況を調査することで、輸血管理面での県内の状況の詳細を把握する。調査項目に「輸血監査」を加え、医療機関での自施設の問題把握と改善に取り組む体制を支援する。調査は、前年度に輸血を実施した小規模の施設も調査対象とし、在宅輸血を調査項目に加えて県内全施設のより詳細な血液使用状況の把握を行うこととする。さらに実践的にI&Aを用いて検証を行うことで、県内の輸血の安全管理体制の課題を把握し、その結果を地域での輸血講演会、輸血検査研修会、また個別の施設での出張教育研修を通じて、輸血の安全性教育、適正使用の取り組みに反映させることとする。

以下に、これまでの各年の全体討論項目、参加施設数などの秋田県合同輸血療法委員会活動状況と、本合同会議に関して公表された論文、学会発表等を下記に示す。

*秋田県合同輸血療法委員会

開催年(回数) 施設(参加者数) 全体討論、特別講演等(講師)

1998年(第1回) 30施設(約80名)

全体討論:院内輸血管理体制

特別講演:「輸血療法一元化と輸血療法委員会の役割」(稲葉頌一)

1999年(第2回) 32施設(約100名)

全体討論:各病院の血液製剤使用状況

特別講演:「血液製剤使用指針」(田村 眞・山本 哲)

2000年(第3回) 37施設(約100名)

全体討論:輸血療法委員会の役割

特別講演:「輸血過誤防止に向けて

-リスクマネージメント輸血過誤防止のために何を行うか-」(比留間潔)

2001年(第4回) 36施設(102名)

全体討論:血液製剤の使用指針・輸血療法に関する指針の取り組み

特別講演:「輸血療法とEBM」(半田 誠)

2002年(第5回) 30施設(87名)

全体討論: I&A を活用した血液製剤適正使用基準について

特別講演: 「福岡県における輸血の I&A と輸血療法の適正化」(佐川公矯)

2003年(第6回) 37施設(87名)

全体討論: 輸血副作用の管理

特別講演: 「輸血のリスク管理としての副作用」(松崎道男)

2004年(第7回) 35施設(84名)

全体討論: 血液製剤の適正使用の取り組みについて

基調講演: 「新鮮凍結血漿の適正使用」(阿部 真)

2005年(第8回) 37施設(86名)

全体討論: 輸血療法委員会の活動

特別講演: 「血液行政の方向性 - 医療関係者の責務-」(山中 鋼)

2006年(第9回) 37施設(80名)

全体討論: 医療機関における輸血管理料への取り組みについて

特別講演: 「新しい診療報酬「輸血管理料」について

- 当院の取り組みと問題点-」(比留間潔)

2007年(第10回) 35施設(71名)

全体討論: 院内輸血検査体制について

特別講演: 「秋田県の輸血医療の実態

- 10年間の合同療法委員会調査結果から-」(面川 進)

2008年(第11回) 35施設(65名)

全体討論: アルブミンの適正使用について

特別講演: 「血液事業の現在・過去・未来」(廣田紘一)

合同輸血療法委員会による地域講演会(2009.3)

シンポジウム「安全な自己血輸血を行うために」(共通プログラム)

県北地区輸血講演会(能代市、63名)

特別講演: 「一般病院における輸血・自己血輸血の管理体制と

輸血の実際について」(北澤淳一)

県南地区輸血講演会(横手市、67名)

基調講演: 「自己血輸血推進と適正輸血」(峯岸正好)

2009年(第12回) 35施設(70名)

全体討論: 緊急輸血・大量輸血への対応と問題点

基調講演: 「緊急・大量輸血時の輸血(産婦人科領域での対応)」(椿 洋光)

合同輸血療法委員会による地域講演会(2010.3)

講演1: 「血液事業の広域運営体制と輸血医療」(面川 進)

講演2: 「秋田県における検査・製剤業務集約と課題」(藤田秀文)

シンポジウム「緊急・大量輸血時の体制構築に対する取り組み」(共通プログラム)

県北地区輸血講演会(大館市、51名)

基調講演: 「緊急輸血時の体制構築に対する取り組みと構築後の現況」(玉井佳子)

県南地区輸血講演会(由利本荘市、77名)

基調講演: 「緊急帝王切開を開始した後に想定外の大量出血に見舞われ、

母体死亡を覚悟せざるを得なかった一例」(椿 洋光)

2010年(第13回) 35施設(66名)

全体討論: 輸血療法委員会の活性化

特別講演: 「血液事業の広域運営体制と輸血医療」(面川 進)

2011年(第14回) 31施設(80名)

全体討論：輸血の安全性教育

特別講演：「輸血の認定制度に期待するもの -認定医、認定技師、
認定看護師制度と輸血の安全性教育-」（浅井隆善）

合同輸血療法委員会による輸血検査研修会（秋田市、62名）（2012.2）

講演：「安全な輸血に必要な基礎知識」（安田広康）

県南地区輸血講演会（湯沢市、85名）（2012.2）

教育講演「輸血用血液製剤の取り扱いと輸血実施時の留意事項」

シンポジウム「輸血の安全性教育に対する取り組み」

討論「輸血の安全教育構築のために 今、何をすべきか」

2012年（第15回）31施設（80名）

全体討論：輸血の安全性確保

特別講演：「安全な輸血について考える -自己血輸血を含めて-」（岩尾憲明）

県北地区輸血講演会（北秋田市、85名）（2013.1）

教育講演「輸血用血液製剤の取り扱いと輸血実施時の留意事項」

シンポジウム「輸血の安全に対する看護部門でのアプローチ」

討論「輸血の安全確保のために 今、何をすべきか」

合同輸血療法委員会による輸血検査研修会（秋田市、60名）（2013.2）

実習：「輸血検査の基礎を学ぶ」（県内認定輸血検査技師）

2013年（第16回）35施設（85名）

全体討論：患者中心の輸血医療を目指して

特別講演：「患者中心の輸血医療 Patient Blood Management」（豊嶋崇徳）

中央地区輸血講演会（秋田市、60名）（2014.3）

教育講演「輸血用血液製剤の取り扱い」

シンポジウム「患者中心の輸血医療 Patient Blood Management」

討論「患者中心の輸血医療を目指して、今できること」

合同輸血療法委員会による輸血検査研修会（秋田市、50名）（2014.2）

実習：「輸血検査の基礎を学ぶ」（県内認定輸血検査技師）

講演1：「輸血検査室における精度管理と製剤管理」（奥村 亘）

講演2：「輸血による副作用と対策」（藤島直仁）

看護師の為のステップアップ輸血研修会（秋田市、168名）（2013.6）

特別講演1「緊急輸血」（藤田康雄）

特別講演2「自己血輸血」（面川 進）

*刊行物

- 1) 「秋田県合同輸血療法委員会 10年のあゆみ」,秋田県合同輸血療法委員会編,2008年3月
- 2) 「秋田県合同輸血療法委員会 -14年間の歩みと医療機関輸血療法委員会の活性化について-」,血液製剤調査機構だより,126,2011年12月,p14-21

*論文発表

- 1) 面川進,花岡農夫,村岡利生,河辺玲子,阿部真,廣田紘一,柳原清：秋田県輸血療法委員会合同会議による地域における適正輸血推進への取り組み. 日本輸血学会雑誌, 48: 490-495, 2002.
- 2) 面川進,花岡農夫,村岡利生,河辺玲子,阿部真,廣田紘一,柳原清：秋田県における自己血輸血の実態 -輸血療法委員会合同会議による調査から-. 自己血輸血, 16: 57-61, 2003.
- 3) 面川進,坂本哲也,村岡利生,金田深樹,阿部真,廣田紘一,高橋訓之：地域における貯血式自己血輸血の実態 -秋田県合同輸血療法委員会による調査から-. 自己血輸血, 20: 49-55, 2007.

4) 面川進,坂本哲也,新津秀孝,西成民夫,村岡利生,阿部真,高橋訓之:地域における輸血療法の実態 -10年間の合同輸血療法委員会による調査から-.日本輸血細胞治療学会誌,55:379-385,2009.

5) 面川進,阿部真:秋田県合同輸血療法委員会による輸血実態把握と血液製剤適正使用推進.日本血液事業雑誌,35:212-215,2012.

6) 阿部真,面川進,新津秀孝,村岡利生,林崎久美子:危機的出血への対応 -秋田県合同輸血療法委員会での調査から-,日本輸血細胞治療学会誌,58:479-485,2012.

*学会発表(全国学会)

1) 面川進,花岡農夫,村岡利生,河辺玲子,阿部真,廣田紘一,柳原清:秋田県輸血療法委員会合同会議による地域における適正輸血推進への取り組み.第50回日本輸血学会総会,2002年5月,東京

2) 面川進,花岡農夫,村岡利生,河辺玲子,阿部真,廣田紘一,柳原清:秋田県における自己血輸血の実態 -輸血療法委員会合同会議による調査から-.第16回日本自己血輸血学会学術総会,2003年3月,東京

3) 面川進,花岡農夫,山内史朗,村岡利生,河辺玲子,阿部真,廣田紘一,柳原清:秋田県輸血療法委員会合同会議によるI&Aの試み.第51回日本輸血学会総会,2003年5月,北九州

4) 阿部真,廣田紘一,柳原清,面川進,花岡農夫,山内史朗,村岡利生,河辺玲子:秋田県輸血療法委員会合同会議によるI&Aの試み -血液センターの視点から.第27回日本血液事業学会総会,2003年9月,京都

5) 面川進,坂本哲也,村岡利生,河辺玲子,阿部真,廣田紘一,柳原清:輸血副作用の報告,管理体制について-秋田県輸血療法委員会合同会議による調査から-.第52回日本輸血学会総会,2004年6月,札幌

6) 阿部真,廣田紘一:秋田県における適正輸血推進事業と血液センターの役割に関する一考察.第52回日本輸血学会総会,2004年6月,札幌

7) 阿部真,廣田紘一:輸血療法委員会と血液センターのかかわり.第53回日本輸血学会総会,2005年5月,千葉

8) 面川進,坂本哲也,村岡利生,金田深樹,阿部真,廣田紘一,渡辺剛,三浦鐵晃:輸血療法委員会合同会議による輸血の実態把握と適正使用推進.第54回日本輸血学会総会,2006年6月,大阪

9) 阿部真,廣田紘一,村岡利生,金田深樹,渡辺剛,三浦鐵晃,坂本哲也,面川進:秋田県内医療機関における輸血前後感染症検査及び検体保管の現状.第54回日本輸血学会総会,2006年6月,大阪

10) 面川進,坂本哲也,村岡利生,金田深樹,阿部真,廣田紘一,高橋訓之:地域における貯血式自己血輸血の実態 -秋田県合同輸血療法委員会による調査から-.第20回日本自己血輸血学会学術総会,2007年3月,新潟

11) 面川進,坂本哲也,村岡利生,金田深樹,阿部真,廣田紘一,高橋訓之:地域における輸血療法の実態 -10年間の合同輸血療法委員会による調査から-.第56回日本輸血・細胞治療学会総会,2008年4月,福岡

12) 面川進,坂本哲也,村岡利生,金田深樹,阿部真,廣田紘一,藤村高広:地域におけるアルブミン製剤の使用状況 -合同輸血療法委員会による調査から-.第57回日本輸血・細胞治療学会総会,2009年5月,さいたま

13) 阿部真,面川進,坂本哲也,新津秀孝,西成民夫,藤島直仁,村岡利生,林崎久美子,藤村高広:秋田県における緊急輸血体制に関するアンケート調査結果 -秋田県合同輸血療法委員会での調査から-.第58回日本輸血・細胞治療学会総会,2010年5月,名古屋

14) 面川進,吉田斉,阿部真,寺田亨,二部琴美,國井華子:血液センターの輸血療法委員会への情

報提供について. 第 58 回日本輸血・細胞治療学会総会,2010 年 5 月,名古屋

15) 阿部真,面川進,新津秀孝,藤島直仁,村岡利生,林崎久美子,井畑博,笹島聡,高橋勝弘:輸血療法委員会の活性化 -合同輸血療法委員会での調査から-. 第 59 回日本輸血・細胞治療学会総会,2011 年 4 月,東京(誌上発表)

16) 面川進,阿部真,新津秀孝,藤島直仁,村岡利生,林崎久美子,井畑博,笹島聡,高橋勝弘:秋田県における貯血式自己血輸血の現状 -合同輸血療法委員会による調査から-. 第 59 回日本輸血・細胞治療学会総会,2011 年 4 月,東京(誌上発表)

17) 面川進:秋田県合同輸血療法委員会による血液製剤適正使用推進. 広島県合同輸血療法委員会, 2011 年 7 月, 広島

18) 面川進,阿部真:秋田県合同輸血療法委員会による輸血実態把握と血液製剤適正使用推進. 第 35 回日本血液事業学会総会,2011 年 10 月,さいたま

19) 阿部真,面川進:地域における自己血輸血の現状 -合同輸血療法委員会の役割について-. 第 25 回日本自己血輸血学会学術総会, 2012 年 3 月,東京

20) 阿部真,寺田亨,國井華子,吉田斉,面川進:合同輸血療法委員会調査による自己血輸血の現状. 第 26 回日本自己血輸血学会学術総会,2013 年 3 月,大阪

21) 寺田亨,阿部真,面川進,村岡利生,林崎久美子,西成民夫,藤島直仁:秋田県における輸血量の推移および血液需要将来予測について -秋田県合同輸血療法委員会による血液製剤使用状況調査から-. 第 61 回日本輸血・細胞治療学会総会,2013 年 5 月,横浜

22) 阿部真、寺田亨、村岡利生、林崎久美子、藤島直仁、西成民夫、面川 進:年齢 5 歳階級別輸血患者実数を用いた輸血用血液製剤の需要予測 -秋田県合同輸血療法委員会の調査から-. 第 62 回日本輸血・細胞治療学会総会、2014 年 5 月、奈良